

## 1 研究主題

主体的に学びを深め、挑戦し続ける子どもの育成  
ー学びをつなぐカリキュラムデザインを通してー

## 2 研究主題設定の理由

本校では、カリキュラムデザインを通して、児童が自ら課題を見つけ、課題の解決に向けて探究的に活動する姿を求めて「主体的に学びを深め、挑戦し続ける子どもの育成」という本研究主題を設定した。

## 3 研究主題について

「主体的な児童」とは、単に意欲的に発言する児童を指すのではない。課題に対し、自ら疑問点を見出し、問いをもって学習に臨む姿を示している。

「挑戦し続ける児童」とは、失敗してもどこがいけないかを考え直し、次の課題へと再チャレンジしていく姿や学びを生活や自分、将来へとつなげていく姿を示している。（図1）

それらの児童の姿を、対話を通して目指すことで、「生きて働く知識・技能」「どんな状況にも対応できる思考力・表現力」「他者と関わる力」「全力でやり抜く力」が身に付くことができると考える。

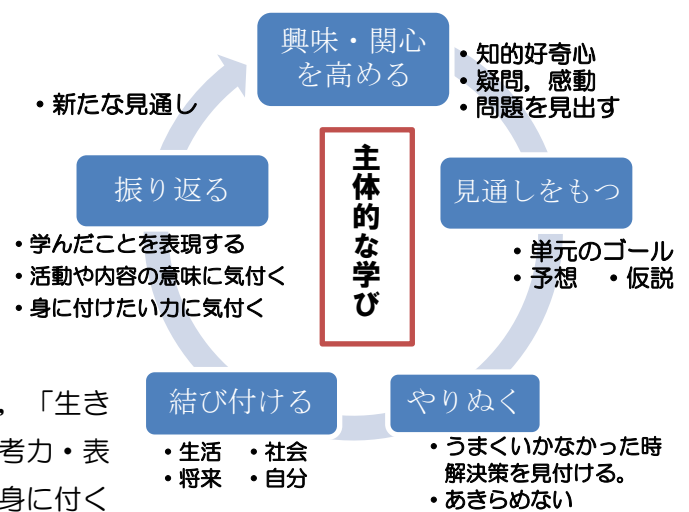


図1

## 4 これまでの研究

本校では、「自分の思いや考えを生き生きと表現できる子どもの育成ー協同学習における学び合いを通してー」という研究主題のもと、長年算数科の研究を行ってきた。その結果、協同学習を通して、わからないことを教え合うことや自分の考えを深めることができ、他の教科の学習でも活用することができてきた。しかし、変化の激しい今後の社会を担う児童生徒に必要な資質・能力を身に付けさせるためには、これまでの知識ベースの学びに加え、これからの社会を生き抜くために必要な資質・能力の育成を目指した「主体的な学び」の創造を目指す必要がある。「主体的な学び」を促す教育活動として、自ら課題を見つけ、課題の解決に向けて探究的な活動をしていくことが重要になってくると考え、カリキュラムをデザインすることの必要性を感じるに至った。

## 5 研究の方法

- ① カリキュラムデザイン
- ② 授業研究

## 6 副題と今年度の研究の方向性

これからの社会や未来を生き抜く子ども達にとって、一人一人が「何を知っているか」だけでなく、それを使って「何ができるか」を問われるようになってきている。そのために、学習過程を「主体的・対話的で深い学び」を目指していかなければならない。そこで、児童が自ら学びをつくっていくために、カリキュラムデザインを行っていく必要があると考え、今年度の研究をスタートさせた。カリキュラムデザインとは、学習内容を学年や教科の枠を超えたつながりで捉え、児童の学習の流れに沿って授業を展開していくことである。つまり、カリキュラムデザインを行い、児童の思考の流れに沿った学習展開を行うことで、主体的・対話的で深い学びにつながると考え、「学びをつなぐカリキュラムデザインを通して」という副題を設定した。

## 7 今年度の研究における目指す子どもの姿と具体的な研究内容

今年度は、カリキュラムデザインを中心として児童の興味・関心を生かした授業づくりを行っていくことから、研究で目指す学びの姿、すなわち「児童自らが問いを持ち、他者とかかわりながら学びをつなげ、熱中して探求し続ける姿」を目指して研究を進めていく。

具体的な研究内容は以下の通りである。

その学年や単元の学習を通して、

- ① 児童の主体的な学びを実現するための工夫がされていたか。
- ② 対話を通して、児童の学びは深まっていたか。

を明確にし、それらを実現するためのカリキュラムデザインの作成を研究の視点としていく。